

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

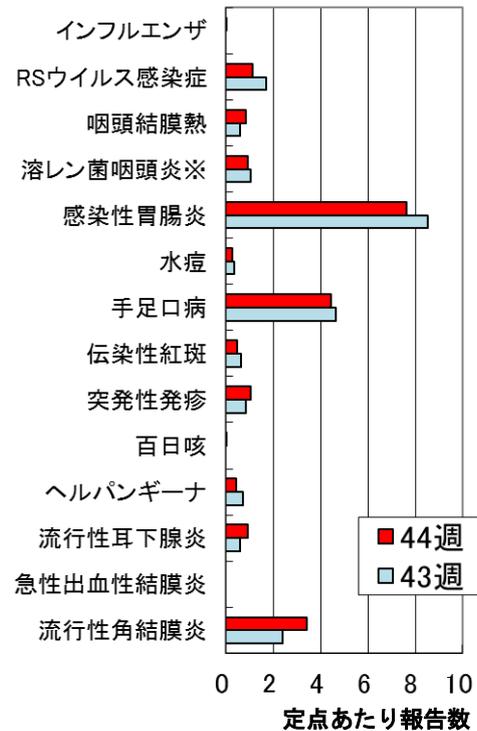
## 宮崎県第44週の発生動向

### 全数報告の感染症 (44週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核3例。3類感染症：報告なし。
- 4類感染症：つつが虫病3例。5類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	80歳代	女	肺結核	咳、痰
			80歳代	男	肺結核	症状なし
		都城	70歳代	男	無症状病原体保有者	-
4類	つつが虫病	小林	50歳代	男	-	発熱、刺し口
			50歳代	男	-	頭痛、発熱、刺し口、発疹
			70歳代	男	-	発熱、刺し口、発疹、体幹・四肢筋肉痛

### 《前週との比較》



### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は680人(定点当たり23.0)で、前週比103%とほぼ横ばいであった。前週に比べ増加した主な疾患は流行性耳下腺炎と流行性角結膜炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナであった。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【感染性胃腸炎】

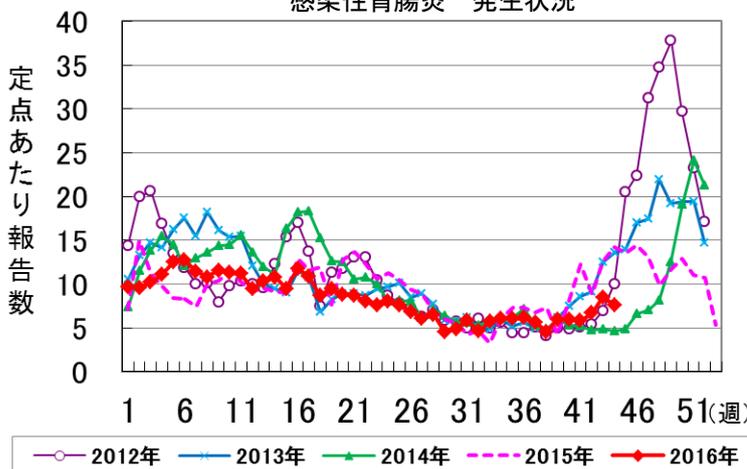
報告数は274人(7.6)で、前週比89%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値\*(10.1)の約0.8倍であった。小林(18.0)、日南(13.7)、都城(10.7)保健所からの報告が多く、年齢別は1~4歳が全体の約半数を占めた

##### 【手足口病】

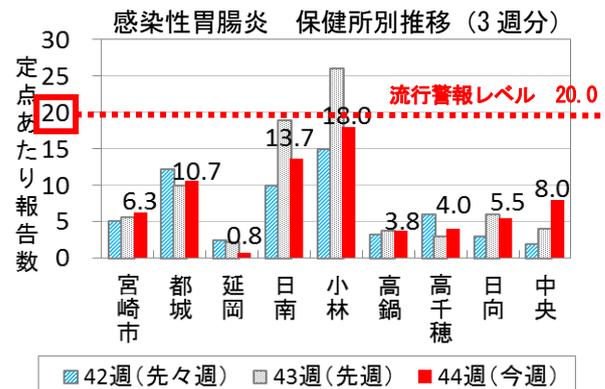
報告数は160人(4.4)で、前週比96%と横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値\*(1.6)の約2.8倍であった。日南(14.7)、中央(10.0)、宮崎市(6.3)保健所からの報告が多く、年齢別は2歳以下が全体の約7割を占めた。

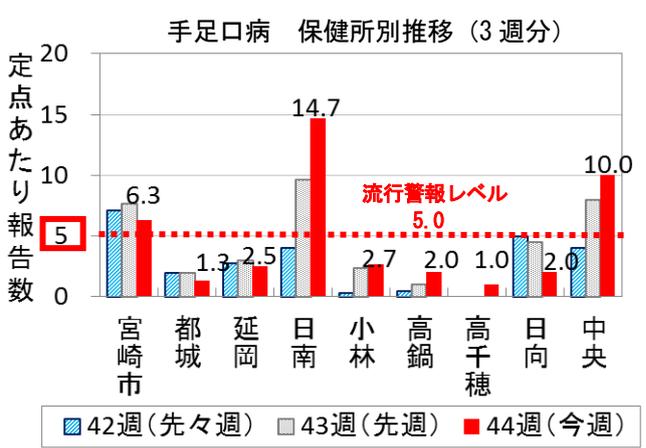
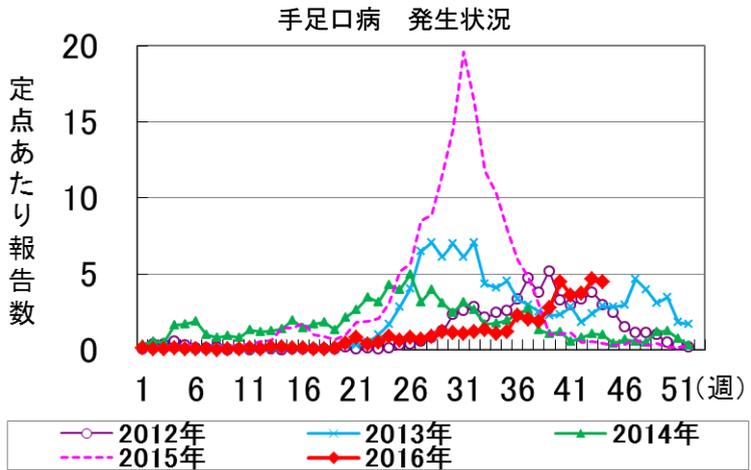
\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

感染性胃腸炎 発生状況



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎





★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：宮崎市(9例)、高鍋(1例)保健所から報告があった。0～4歳が6例、5～9歳、10歳代が各2例ずつであった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(6.3)
都城	なし
延岡	なし
日南	手足口病(14.7)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	手足口病(10.0)

\*流行警報レベル開始基準値\*

・手足口病(5.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成28年11月7日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2016.10.12	気管支炎、連続性咳嗽	咽頭ぬぐい液	2016.10.24
<i>Bordetella parapertussis</i> (パラ百日咳菌)	0～4歳	男	2016.10.17	気管支炎	咽頭ぬぐい液	2016.10.17
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	30歳代	女	2016.10.17	無症状	咽頭ぬぐい液	2016.10.25
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	70歳代	男	2016.10.17	-	便	2016.10.25
EPEC(O157:H7)	不明	男	2016.10.19	-	便	2016.10.26
<i>Salmonella</i> Singapore (O7:k:e,n,x)	20歳代	女	2016.10.20	-	便	2016.10.28
<i>Salmonella</i> Newport(O8(O6):e,h:1,2)	80歳代	女	2016.10.24	発熱(38.8℃)、肺炎、低血圧、水様性下痢、意識障害	便	2016.10.28
<i>Salmonella</i> Stanley (O4:d:1,2)	0～4歳	女	2016.10.25	-	便	2016.11.1

4種類の血清型のサルモネラが分離された。衛生環境研究所で2000年～2015年までに同定されたサルモネラ属菌の血清型は66種類にのぼるが、年次的な変化が見られる。近年、サルモネラで汚染された食肉や動物飼料などの輸入、海外旅行者の急増などさまざまな要因により血清型の多様化が見られる。今後も継続的な発生動向の調査を行い、注意していく必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ムンプスウイルス	0～4歳	男	2016.10.18	流行性耳下腺炎、38.7℃、リンパ節腫脹(耳下腺炎)	咽頭ぬぐい液	2016.10.31
エコーウイルス9型	5～9歳	男	2016.10.17	無菌性髄膜炎、頭痛、髄膜炎(頸部硬直)	咽頭ぬぐい液	2016.11.07
エコーウイルス18型	0～4歳	男	2016.10.19	エンテロウイルス疑い、パレコウイルス疑い、39.3℃、発疹(丘疹、紅斑)	咽頭ぬぐい液	2016.11.07
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2016.09.10	手足口病、38.4℃、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2016.11.04
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2016.09.02	手足口病、発熱、口内炎、水疱(発疹)	咽頭ぬぐい液	2016.10.27
コクサッキーウイルスA16型	0～4歳	女	2016.03.31	ヘルペス、38.8℃、口内炎	咽頭ぬぐい液	2016.10.27
ライノウイルス	5～9歳	女	2016.10.26	気管支炎、40.0℃、頭痛	咽頭ぬぐい液	2016.11.01
ライノウイルス	0～4歳	男	2016.08.20	手掌紅斑、38.5℃、上気道炎(紅斑)、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.11.01
ライノウイルス	0～4歳	女	2016.08.22	手足口病疑い、39.0℃、発疹(紅斑)、鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.11.01
ライノウイルス	0～4歳	女	2016.09.08	麻疹疑い、39.9℃、発疹(バラ疹)	咽頭ぬぐい液	2016.10.27

○乳幼児4名からライノウイルスが検出された。ライノウイルスは頭痛・のどの痛み、鼻詰まり、くしゃみを引き起こす。気道の粘膜が炎症を起こすことにより、二次的に病原体（特に細菌）の感染が起こりやすくなり、気管支炎、肺炎、副鼻腔炎などになることもある。また、4名のうち3名に紅斑や発疹がみられた。

○手足口病と診断された乳幼児2名からコクサッキーウイルスA6型が分離された。国立感染症研究所によると、国内における手足口病流行のピークは夏季であるが、秋から冬にかけても発生があるため、注意が必要である。

## 🇯🇵 全国 2016 年第 43 週の発生動向

### □ 全数報告の感染症（全国第43週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	356 例				
3類感染症	コレラ	1 例	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	80 例
	パラチフス	1 例				
4類感染症	E型肝炎	1 例	A型肝炎	5 例	重症熱性血小板減少症候群	3 例
	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	7 例	デング熱	7 例
	日本紅斑熱	14 例	日本脳炎	2 例	レジオネラ症	38 例
	レプトスピラ症	3 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	15 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	17 例
	急性脳炎	4 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6 例
	後天性免疫不全症候群	18 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	28 例
	水痘（入院例）	3 例	梅毒	56 例	播種性クリプトコックス症	1 例
	破傷風	1 例	風しん	2 例	麻しん	2 例

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 102% とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。減少した主な疾患はRSウイルス感染症と流行性耳下腺炎であった。

インフルエンザの報告数は 2,329 人(0.47) で前週比 127% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値\* (0.08) の約 5.8 倍であった。沖縄県(11.4)、福井県(1.7)、岩手県(1.1)からの報告が多く、年齢別では9歳以下が全体の約3割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(71 定点医療機関)

2016年 第44週(10月31日～11月6日)

疾病名		第43週	第44週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		2	1				1				
	定点あたり	0.00	0.03	0.06	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	61	40	6	4	8	1	9		1	8	3
	定点あたり	1.69	1.11	0.60	0.67	2.00	0.33	3.00	0.00	1.00	2.00	3.00
咽頭結膜熱	報告数	22	31	14	3		8	1	2		1	2
	定点あたり	0.61	0.86	1.40	0.50	0.00	2.67	0.33	0.50	0.00	0.25	2.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	37	33	10	2	3	4	2	10		1	1
	定点あたり	1.03	0.92	1.00	0.33	0.75	1.33	0.67	2.50	0.00	0.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	307	274	63	64	3	41	54	15	4	22	8
	定点あたり	8.53	7.61	6.30	10.67	0.75	13.67	18.00	3.75	4.00	5.50	8.00
水痘	報告数	12	9	4		4			1			
	定点あたり	0.33	0.25	0.40	0.00	1.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	167	160	63	8	10	44	8	8	1	8	10
	定点あたり	4.64	4.44	6.30	1.33	2.50	14.67	2.67	2.00	1.00	2.00	10.00
伝染性紅斑	報告数	23	17	2	2	4	3	2	1		3	
	定点あたり	0.64	0.47	0.20	0.33	1.00	1.00	0.67	0.25	0.00	0.75	0.00
突発性発しん	報告数	31	38	6	12	9	5		2		3	1
	定点あたり	0.86	1.06	0.60	2.00	2.25	1.67	0.00	0.50	0.00	0.75	1.00
百日咳	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	26	15	1	7	2	5					
	定点あたり	0.72	0.42	0.10	1.17	0.50	1.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	22	33	5	6	5	1	1	10	1	4	
	定点あたり	0.61	0.92	0.50	1.00	1.25	0.33	0.33	2.50	1.00	1.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	17	12	5							
	定点あたり	2.40	3.40	6.00	2.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	2	10	9					1			
	定点あたり	0.29	1.43	9.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:5、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～44週)

2類感染症	結核	178例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	13例				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	8例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	9例(3)	デング熱	1例
	日本紅斑熱	6例	レジオネラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	13例	ウイルス性肝炎	3例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	8例
	急性脳炎	10例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	5例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	6例
	水痘(入院例)	3例	梅毒	8例	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	2例				

( )内は今週届出分、再掲